

都市住民の親水性と水空間の演出

徳島大学工学部 正員 定井喜明
徳島大学工学部 正員 近藤光男
吉田組 正員 ○室井勇人

§1. はじめに

徳島市の中心部を貫流する新町川周辺では、徳島市が中心市街地の振興を図るため、昭和52年以来ショッピング・モールを中心とする市街地整備計画を検討してきた。そしてこの整備計画の主要な柱として「新町川沿岸水際公園の整備」が位置づけられている。本研究では、昨年発表の都市住民の水環境に関する研究を深め、新町川周辺住民のグループングとその特性の分析を行なった。さらに、その結果から、新町川水際公園整備において、水空間の演出とデザイン指針を析出せんとしたものである。

§2. 親水性意識による住民特性

数量化理論3類を適用して、住民の親水性意識構造を分析し、第Ⅰ軸（Ⅰ軸：新町川の現水質に対する満足度、Ⅱ軸：住民の固有属性、Ⅲ軸：新町川の利用度、Ⅳ軸：新町川の貢献度、Ⅴ軸：新町川公園整備の希望内容）まで求められた。その結果各カテゴリー値を平面上にプロットした1例が、図-1である。これは、第Ⅰ軸と第Ⅳ軸に対して、各カテゴリー値を2次元的に表わしたものである。第Ⅰ軸は、上側新町川の現水質に対して満足しており、下側新町川の現水質に対して不満があることを示している。これに対して第Ⅳ軸は、右側新町川に対する貢献度を低く評価し、左側新町川に度々接し、貢献度を高く評価している。これらの分析結果より、新町川周辺の住民は、新町川の現水質に対して、満足、不満の人、新町川の貢献度を高く評価する人、低く評価する人、新町川の利用度の高い人、低い人、遊び場水際公園を希望する人、シンボリック水際公園を希望する人の8つのグループに分類されることがわかった。表-1にその8つの住民グループの意識と固有属性の特性を示す。

§3. 住民の水環境意識に対する属性の特性

水環境意識調査の結果を用いて、性別、年令、居住年数および性別、年令、新町川までの直線距離の2組の3属性を三元配置とする分散分析を行ない、各水環境意識項目に対してこれら2組の3属性およびその交互作用が有意であるか否かの検定を行なった。その結果を表-2に示す。この結果から水環境意識は、年令によって大きく左右されることがわかった。これらの

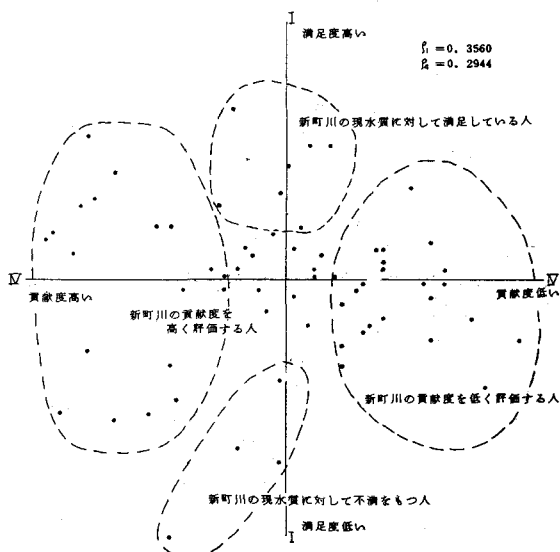


図-1 数量化理論3類によるカテゴリーの2次元配置（第Ⅰ軸、第Ⅳ軸）

表-1 数量化理論3類による住民のグループとその特性一覧表

分類名	特性（属性）
1 新町川の現水質に対して満足している人	年収600万円以上、居住年数30年以上 年令50～59才、男、徳島市内出身
2 新町川の現水質に対して不満をもつ人	徳島県外出身、居住年数19年以下 家族が借家である
3 新町川の貢献度を低く評価する人	年令30～39才、新町川までの距離100～200m 年収400～600万円、サービス業、家族人数4人
4 新町川の貢献度を高く評価する人	新町川までの距離100m以内、年令60才以上 公務員、工・製造業、家族人数3人以下
5 新町川の利用度の低い人	新町川までの距離300～500m、家族人数3人以下 年令50～59才、年収600万円以上
6 新町川の利用度の高い人	家族人数4人、居住年数9年以下 年令30～39才、家族が借家である
7 遊び場的水際公園を希望する人	家族人数5人以上、年令30～39才、徳島市内出身 新町川までの距離100～200m
8 シンボリック水際公園を希望する人	徳島市以外の徳島県内出身、工・製造業 家族人数3人以下、年令50～59才、家族が借家

有意な属性のクロス集計結果から、新町川沿いの公園整備に対して、「水質浄化」、「總の場」、「水際接近」、「スポーツ施設および子供の遊び場」という4つの内容を希望する各グループをみると、「水質浄化」に対しては、40～49才、居住年数30年以上の40～49才の中年令層、「總の場」に対しては、女性、「水際接近」に対しては、39才以下の人、新町川から100 m未満に住む40～49才の中年令層の男性、「スポーツ施設および子供の遊び場」に対しては、女性、39才以下の人が有意に多いことがわかった。

また、39才以下の方は、新町川の現水質に対して満足する割合が少ないにもかかわらず、新町川沿いの公園の整備に関して「水質浄化」を希望する割合が低く、「水際接近」と「スポーツ施設および子供の遊び場」という行動的・実利的な整備を希望していると考えられる。女性は、「總の場」、「スポーツ施設および子供の遊び場」を希望していることから、静穏的・実利的な整備を望んでいると考えられる。新町川から100 m未満に住む40～49才の中年令層の男性は、新町川沿いの公園を水際まで接近できるように要望している人が多いことがわかった。

§4. 水空間の演出とデザイン指針の構想

都市住民の水環境に関する研究と本研究の解析結果を総合し、前記の表-1、表-2の結果を洞察し、水空間の演出という見地から水際公園を考えてみると、子育てのライフサイクルにある30～39才の方は、家族利用可能性を考慮して、水遊びを中心とした演出を望み、またそれ以外の39才以下の方は、躍動的・行動的・ロマンチックな緑と水の演出を望んでいると思われる。逆に、中高年令層にとっては、静穏さとゆとりを持ち、水清らかなやさしさの空間の創出を欲していると考えられる。

§5. おわりに

本研究では、新町川周辺の住民を8分類し、その特性を明らかにした。また、住民の水環境意識に対する属性の交互作用について分析し、水空間の演出とデザイン指針の構想を打ち出した。その結果、水環境意識は、年齢によって大きく左右されることがわかった。

〈参考文献〉

1) 定井喜明他：「都市住民の水環境に関する研究」、第34回土木学会中国四国支部学術講演会概要集

表-2 個人属性による分散分析結果一覧表

水環境意識項目 アイテム	カテゴリー	性別	年齢	居住年数	距離	有意水準	比率	平均比率
水質変化	変化した	—	—	30年未満	—	5%	79.6%	83.7%
		—	—	30年以上	—	—	88.6%	
		—	—	—	100m未満	1%	90.5%	
		—	—	—	200～500m	—	77.8%	
現水質に対する満足度	満足している	—	39才以下	—	—	1%	25.3%	39.5%
		—	50才以上	—	—	—	50.7%	
		—	39才以下	30年未満	—	5%	23.0%	
		—	50才以上	30年以上	—	—	53.0%	
現水質評価点数	70.5以上	—	39才以下	—	—	1%	11.6%	19.9%
		—	40～49才	—	—	—	25.2%	
		—	—	—	100～200m	5%	22.7%	
		—	—	—	200～500m	—	18.7%	
		男	39才以下	—	—	5%	8.0%	
		男	40～49才	—	—	—	32.8%	
		男	50才以上	—	100m未満	1%	37.8%	
		男	39才以下	—	100～200m	—	6.9%	
公園整備内容「水質浄化」	希望する	—	39才以下	—	—	1%	38.0%	48.8%
		—	40～49才	—	—	—	55.5%	
		—	39才以下	30年以上	—	5%	28.0%	
		—	40～49才	30年以上	—	—	61.0%	
公園整備内容「總の場」	希望する	男	—	—	—	5%	45.5%	52.4%
		女	—	—	—	—	57.0%	
公園整備内容「水際接近」	希望する	—	39才以下	—	—	1%	42.7%	33.3%
		—	50才以上	—	—	—	26.8%	
		男	40～49才	—	100m未満	5%	54.5%	
		女	40～49才	—	100m未満	—	11.1%	
公園整備内容「遊び場」	希望する	男	—	—	—	5%	26.8%	31.5%
		女	—	—	—	—	36.2%	
		—	39才以下	—	—	5%	40.5%	
		—	50才以上	—	—	—	26.0%	